

# 「抗がん剤治療における過敏性反応のゲノム解析」 について

**研究責任者** 蒔田 泰誠  
**所属** 理化学研究所統合生命医科学研究センター  
ファーマコゲノミクス研究グループ

## 概要 (目的・利用方法を含む)

私たちは、抗がん剤治療における過敏性反応関連遺伝子の研究を行っています。がん治療においては、多くの抗がん剤は静脈内投与時に過敏性反応を起こす可能性があります。過敏性反応には、皮膚症状 (掻痒、蕁麻疹、皮疹など)、循環器系症状 (低血圧、頻脈、徐脈など)、呼吸器系症状 (咳、鼻充血、息切れなど)、中枢神経系症状 (意識消失、めまい、痙攣など) など、様々な症状が見られ、その場合は程度に関わらず薬剤投与を直ちに休止あるいは中止して、重症度を迅速に評価する必要があります。

この研究では、抗がん剤による過敏性反応が、生まれながらの体質と関係するかどうかを、血液などから取り出した遺伝子を調べることによって明らかにします。その成果をもとに、抗がん剤治療を開始する前に、過敏性反応のリスクを予測することにより、より安全で適切な治療ができるようにすることを目指しています。

## 1. 研究の対象となる方

本研究は、以下の方を対象としております。

2013年～2018年において、3.の研究課題への参加に同意された、ドセタキセルまたはトラスツズマブを投与された方

## 2. 研究に用いる試料・情報の種類

DNA およびカルテより収集された臨床情報

## 3. 外部からの試料・情報の提供

本研究では、以下の研究課題において、共同研究機関で文書による同意の下、収集された試料・情報が、匿名化された上で理化学研究所に提供されます。

名古屋大学医学部附属病院 化学療法部

研究課題名

- ・「ドセタキセルによるアレルギーの出現予測因子決定のためのゲノムワイド関連解析研究」
- ・「トラスツズマブによるインフュージョンリアクションの発生予測因子決定のためのゲノムワイド関連解析研究」

## 4. 外部への試料・情報の提供

研究に用いる試料は、本研究用に割り振られた匿名化番号を使って管理しています。提供された試料・情報を用いた解析は、特定の関係者以外はアクセスできない状態で実施しています。個人別の解析データは、外部ネットワークから切り離されたコンピュータで厳重に管理されています。個人別または集団としての結果を、3.の共同研究機関に提供しています。

**5. 研究期間**

2013年12月25日～2018年3月31日

**6. 研究組織**

名古屋大学医学部附属病院 化学療法部において、1.に記載された症例に対して、2.に記載された試料・情報を収集します。

代表者:安藤 雄一

**7. 研究参加の辞退について**

試料・情報が本研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方が研究参加を拒否される場合は、研究対象から取り除きますので、以下の連絡先までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

なお、お申し出をいただいた時点で、既に解析が進んでいる場合や論文化されている場合には、研究対象から取り除くことができない場合があることをご了承ください。

**8. お問い合わせ先**

<お問い合わせおよび研究への利用を拒否する場合の連絡先>

担当者: 蒔田 泰誠

所属: 理化学研究所統合生命医科学研究センター  
ファーマコゲノミクス研究グループ

電話番号: 045-503-9597

住所: 神奈川県横浜市鶴見区末広町 1-7-22